

第7回目

2012年8月3日(金曜日)

18:00 ~ 19:00

元安橋東詰からスタートし本通り、金座街を往復します。毎週金曜に歩きます。

飛び入り歓迎
槍が降ったら中止します

広島2人デモ

雨天
決行

いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった**2人でも歩く**。
それが2人デモです。黙っていたら社会人としてだけではなく、企業人としても恥。

野田首相！あなたは恥を知るノダ！



調査・文責：哲野イサク
チラシ作成：網野沙羅
URL：<http://www.inaco.co.jp/isaac/>
連絡先：sarah@inaco.co.jp

「大飯原発の安全確認」 は不十分と明言

9月から発足予定の原子力規制委員会の初代委員長候補の**田中俊一氏**は極めて危険な人物です。この人物は日本人全体に被曝を押しつけようとする国際的な動きの日本における主要人物の1人だからです。しかしその田中氏も、8月1日衆参両院議員運営委員会で、「**4月の暫定安全基準は不十分**」として大飯原発には活断層が存在する可能性があり、**はっきりすれば再稼働を中止する**、と明言せざるを得ませんでした。

(裏面参照のこと)

マスコミが報じない資料 地震の巣の上の 大飯原発

今回再稼働した3号機、4号機**(18日21時再起動)**は、かつて断層がずれたことを示す**断層破碎帯の真上に乗っている**ことが判ります。3号機・4号機は地震の巣の上に乗っているのです。

(大手マスコミはこの資料を報じていません)「大飯原発事故」の前に再稼働を止めましょう。

「福島原発事故は終わっていない」

(国会事故調報告 - 2012年7月5日)

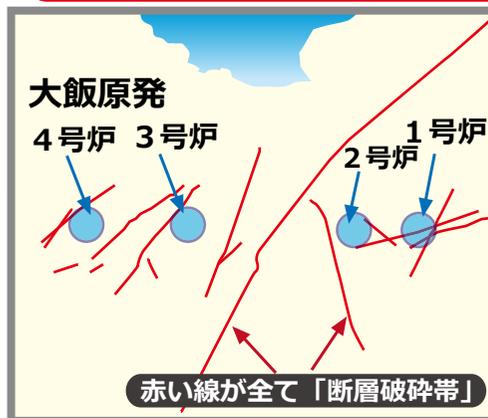
関電

嘘で固めた再稼働

止めましょう！

「大飯原発事故」の前に

黙っていたら“YES”と同じ



出典：原子力安全・保安院「地震・津波に関する意見聴取会」
第19回平成24年7月17日配布資料
「地震・津波19-4」P7
「大飯発電所地質水平断面図 (EL+3m)」図をトレース処理
<http://www.nisa.meti.go.jp/shingikai/800/26/019/240717.html>

どうしたら原発を止められる？

東京の首相官邸周辺では毎週十数万人規模の「再稼働反対抗議行動」が行われています。大きな力です。しかし原発の息の根を止めるにはそれだけでは不十分です。そのためには、

1. 反原発・反被曝を日本の基本政策とする
2. その政策を掲げる政治グループが国家権力を掌握する
3. その政治グループが政府を組織する

ことが必要です。何党でも構いません。この政府を「反原発・反被曝緊急国民政府」と呼びます。

ますます隠せない！ 政府・関電のウソ

7月も半ばを過ぎ、全国的に35℃以上の猛暑日が続きます。政府・関電、関西広域連合の立てた予測、そして大手マスコミが大宣伝した『関電管内』の電力不足は一体どうなったのでしょうか？
『ピーク時使用電力は3000万kWを確実に越える、原発なしでは電力不足で国民生活は大混乱に陥る』
とした威しはますます**ウソ**であることが隠せなくなっています。7月31日までピーク時使用電力が**2700万kWを越えた日は結局1日もありません**でした。政府・関電の立てた需要予測のウソはますます隠せないものとなっています。

また**電力供給**の側でも政府・関電は**ウソ**をついていました。当初の予測では原発なしで関電の供給能力は2550万kW程度としていました。実際には原発なしで少なくとも**3110万kWの供給能力**があることが明らかになっています。(裏面参照のこと)

「大飯原発の安全確認」は不十分と明言

自ら危険人物である原子力規制委員会委員長候補の田中俊一氏は8月1日の衆参両院合同運営委員会で、「福島原発事故は収束していない」と述べた上で、4月の再稼働安全基準は「津波、地震、活断層の評価が不十分」とし、「もし活断層の影響あるなら再稼働を停止すべきだ」と述べました。そして大飯原発の調査も関電任せにしない、と明言しました。大飯原発は誰も安全が保証できない状況で再稼働・フル操業にはいつています。「大飯原発事故」の前に是非とも止めなければなりません。

関西電力 ピーク時電力供給量と内訳 (7月19日から8月1日)

ピーク時最大電力供給能力 (原発除く：推計)

3,111万 Kw 以上

(原発を除く認可最大発電設備能力+他社受電600万kW)
認可最大発電設備能力は火力・水力・揚水、合計2511万kW

ますます隠せない！政府・関電のウソ

政府・関電、橋下大阪市長率いる関西広域連合はどうやって関電供給力のウソをついたのでしょうか？火力発電所は老朽化していると称して、夏場は雨が少ないとして水力発電、揚水時間が必要だとして揚水発電をそれぞれ少なく見積もりました。しかし彼らの**詐術の最大のポイント**は、関電以外に管内には**電力を供給する新規事業者**が存在していることに**類かぶり**していたことです。関電管内には、主要な発電事業者だけでも合計362万kWの発電能力があり、**神鋼神戸発電所(神戸製鋼所)は140万kW、泉北発電所(大阪瓦斯)は110万kW**と原発並の発電能力を抱えます。その他に電源開発は50万kW以上の水力発電能力を持っています。関電は他社受電と称して社外から電気を調達していますが、そのうち**少なくとも500万kW以上**はこうした、特定電気事業者、卸供給事業者、独立発電事業者、特定電気規模事業者からの供給です。政府・関

電はこうした供給電力をほぼ計算に入れていません。**原発なしでも十分この夏場は乗り切れる**ことをよく知っていました。

さらにこうした事業者はLNG・石炭などを燃料としています。彼らは赤字ではありません。**大阪瓦斯は増収増益**です。燃料費高騰のため“赤字”という関電の言い分には何かウラがありそうです。

特定電気事業者、卸供給事業者、独立発電事業者 (IPP)、特定規模電気事業者 (PPS) による主な発電設備

主な火力発電所 (関西電力に供給)

(単位は全て万kW)

発電所名	燃料	総出力	運営会社 (親会社)	
西島エネルギーセンター	LNG	15	大阪市	大阪瓦斯
中山共同発電船町発電所	LNG	15	大阪市	大阪瓦斯・中山製鋼所
泉北天然ガス発電所	LNG	110	大阪市	大阪瓦斯子会社
JX日鉱日石エネルギー大阪製油所	残渣油	19	高石市	JX日鉱日石エネルギー
神鋼神戸発電所	石炭	140	神戸市	神戸製鋼所
新日鐵広畑発電所	石炭	13	姫路市	新日本製鐵
高砂火力発電所	石炭	50	姫路市	電源開発
合計		362	※高石市は大阪府	

(資料出典：日本語ウィキペディア「日本の火力発電所」及び「電源開発ホームページ」より)

(その他、電源開発は関電管内に約50万kWの水力発電設備を持っている)

単位はすべて万kW
「最高気温」は関電発表のその日の最高気温。

35℃を超えた日

2012年				認可最大発電設備能力			火力発電		水力発電		揚水発電		原子力	他社受電 (内融通)				
日付	曜日	最高気温	ピーク時供給実績	ピーク時使用実績	ピーク時刻	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	一定出力	ピーク時	ピーク時率	融通電計	中部	北陸	中国
8月1日	水	36.2℃	2,990	2,574	14:00	1,413	83.6%	250	66.1%	405	91.6%	236	687	21.1%	145	145	7	57
7月31日	火	35.8℃	2,984	2,612	14:00	1,470	86.9%	253	66.9%	386	87.3%	237	656	16.9%	111	111	11	54
7月30日	月	35.8℃	3,022	2,635	14:00	1,470	86.9%	253	66.9%	417	94.3%	237	646	17.2%	111	111	11	54
7月29日	日	35.9℃	2,610	2,217	19:00	1,208	71.4%	240	63.5%	326	73.8%	237	610	23.6%	144	144	23	56
7月28日	土	35.9℃	2,801	2,339	13:00	1,208	71.4%	256	67.7%	397	89.8%	237	704	29.8%	210	210	24	86
7月27日	金	35.7℃	3,008	2,672	16:00	1,433	84.7%	265	70.1%	407	92.1%	237	667	18.6%	124	124	14	74
7月26日	木	35.5℃	3,029	2,634	16:00	1,433	84.7%	270	71.4%	448	101.4%	237	643	19.8%	127	127	14	67
7月25日	水	33.6℃	2,886	2,514	15:00	1,313	77.6%	271	71.7%	432	97.7%	236	634	20.0%	127	127	14	67
7月24日	火	33.6℃	2,952	2,514	14:00	1,373	81.2%	270	71.4%	432	97.7%	237	641	19.8%	127	127	14	67
7月23日	月	32.5℃	2,924	2,328	16:00	1,373	81.2%	266	70.4%	432	97.7%	212	641	20.9%	134	134	14	74
7月22日	日	32.2℃	2,455	1,963	19:00	953	56.4%	263	69.6%	428	96.8%	202	609	22.5%	137	137	23	49
7月21日	土	32.9℃	2,639	2,052	13:00	1,084	64.1%	225	59.5%	448	101.4%	144	709	26.7%	189	189	24	65
7月20日	金	31.3℃	2,851	2,384	14:00	1,433	84.7%	270	71.4%	432	97.7%	118	599	11.7%	70	70	14	20
7月19日	木	32.5℃	2,853	2,546	14:00	1,470	86.9%	268	70.9%	430	97.3%	118	607	10.9%	66	66	14	6
ピーク時平均			2,857	2,427		1,331	79.3%	259	68.7%	416	94.1%		647	31.1%	202	129	14	57

1. 関西電力の「原発」と「新エネルギー」を除くピーク時最大発電能力は、火力、水力、揚水合計2511万kW。(認可発電設備ベース)
2. 他社受電は、IPP (独立発電事業者)、自家発電設備などからの余剰電力及び他電力会社からの融通電力の3種類。
3. 他社受電は、ピーク時約600万kWのうち融通電力は平均約15%だった。従って他社受電能力はピーク時約600万kWとできる。(実績ベース)
4. 従って関西電力のピーク時最大電力供給能力は、原発を除く自社発電能力2511万kWに他社受電600万kWを加え、3111万kWと推計できる。
5. 大飯原発4号機は7月21日に送電開始、7月24日にフル稼働になった。(3号機・4号機とも定格出力は117.5万kW)
6. 他社受電のうち融通電力を除くと平均約500万kWが関電と契約を結んでいる独立発電業者や自家発電設備の余剰電力供給。しかもこれは大きな変動はない。
7. 資料出典は関西電力ホームページ「でんき予報」の「過去の使用電力実績ダウンロード」及び「関西電力有価証券報告書 平成23年」

他社受電のうち、他電力会社の供給量 たったこれだけ。